

令和5年12月定例記者会見

【説明】

〔01 生駒市とBANDITO生駒がまちづくりに関する協定を締結〕

市長 生駒市では、様々なスポーツの振興やスポーツとまちづくりの連携を進めておりますが、今回は、生駒市に本拠地を置いて活動されているサッカーチーム「BANDITO 生駒」とのまちづくり協定を締結します。さらにJリーグでも大変活躍されたフェルナンジーニョ選手が、今回、BANDITO 生駒に加わり、生駒市に実際に住み、公私とも生駒市を盛り上げていただくということなので光栄に思っています。市としても生駒に住んでよかった、またBANDITO 生駒さんにここに本拠地を置いてよかったと言っただけのように連携して様々な取り組みを行いたいと思います。

BANDITO 生駒代表 BANDITO 生駒は、2022年にチームを発足して、今年は奈良県社会人2部リーグで優勝しました。地域を盛り上げられるよう、観光、教育などいろんな形で地域活性化に貢献していきたいですし、皆さんに応援していただきながら、Jリーグ参入を目指しています。フェルナンジーニョ選手は、日本で10年以上プレーしておられるので、日本で暮らし、子どもに日本の教育を受けさせたい、日本に恩返しをしたいという思いがあると聞かせていただいて、「BANDITO 生駒」が今フックになろうとしている生駒市で、Jリーグで14年間の経験を、サッカー選手としてだけでなく、まちづくり活かせればと思って今回オファーをし、快諾していただきましたので共に活動をさせていただきたいと考えています。

フェルナンジーニョ選手 BANDITO 生駒そして生駒の皆さんとサッカーを通して繋がれたことを心から感謝しています。私はサッカーというキャリアを自分の人生をかけて行ってきました。生駒の皆さんの心をサッカーを通して繋ぎ、一緒にまちの活性化に全力で取り組んでいきたいと思っています。

【質疑応答】

記者 協定によって具体的にどういう取り組みを行い、まちづくりの活性化に繋がっていきますか。

市長 まず1つは、サッカーを通じた地域の振興や青少年への健全育成です。生駒市では小学校高学年、中学生の頃から自分の将来をどう描いていくのかというキャリア教育に力を入れて取り組んでいますが、サッカーやスポーツという切り口からも指導していただきたいと考えています。二つ目は、教育関係の施設へサッカーボールの寄贈や、サッカー教室の開催、またスポーツ関係の合宿の誘致やスポーツイベントを開催したいと考えています。また、フェルナンジーニョ選手が、実際に生駒市に住まれるので、生駒市には約1000人の多国籍の方がおられるという特徴を活かして、コミュニケーションの場をつくる国際交流イベントへの参加も積極的に協力していただきたいと思います。

BANDITO 生駒代表 いろんな方に生駒市を知っていただくことも重要なことだと思います。サッカーだけではなく、一企業として教育や国際交流を進め、地域活性化に繋がっていききたいと考えています。

記者 チームをどのように強化していきたいと考えていますか。

BANDITO 生駒代表 今、Jリーグも含めてチームのあり方が問われている中で、地域の方が応援し地

域の方が作るチーム、自分の地域のチームと思ってもらえるような取り組みをしなければならないと考えています。

フェルナンジーニョ選手 スポーツ業界では、結果が物事の全てを決めるという原理が働いており、私自身はチームや生駒市の皆さんに、自分の100%の努力を通して、良い結果を提供し、生駒市の皆さんともっと繋がりを深めたいと思っています。そして、生駒市が外国人も住みやすい場所だということをもっと広めていきたいと思っています。私自身は8歳の子どもがいますが、自分の好きなことに熱中する様子を見ている中で、生駒市の子どもたちにも、サッカーを通して何かしら将来性を感じるような夢を与える活動ができればと心から願っています。

記者 サッカーが文化として根付いているブラジルで育ってきたフェルナンジーニョさんが、選手としてだけではなくて、スポーツダイレクターとしてどのように貢献できると考えていますか。

フェルナンジーニョ選手 スポーツダイレクターとして、日本、ブラジルサッカーの良いところを合わせて、青少年の育成やチームの成長に繋がりたいと思います。さらにサッカーだけではなく、市民の皆さんと一緒にまちの活性化に繋がっていきたいと思っています。長年の経験からサッカーなどスポーツを通して人々は心で繋がりが合えると確信しましたので、今回このプロジェクトに携わるに当たって、人と人の心を繋ぐ役割を果たすスポーツダイレクターになりたいと思います。

記者 プレイヤーとして復帰することに対してどう考えていますか。

フェルナンジーニョ選手 引退して3年経ちますが、BANDITO 生駒と生駒市の思いをお聞きし、このプロジェクトの将来性なども考えた中で、自分自身が選手として何か貢献できることがあるのであれば、フィジカルを万全に整えて頑張ろうと思いました。そして何よりも、その中でチームや生駒市の皆さんに様々な結果を提供し、人との繋がりを広げていきたいと思っています。

記者 生駒市にはいつから住まれていますか。また生駒市の印象は。

BANDITO 生駒代表 住居は市内で探しているところです。

フェルナンジーニョ選手 ブラジルでは地方に住んでいたのですが、生駒市も自然豊かな場所でもとても気に入りました。また、生駒市の皆さんは温かい人たちや外国人も多く、このまちで家族と一緒に住みたいと思いました。

記者 いつオファーされましたか。今後のスケジュールはどうなりますか。

BANDITO 生駒代表 今年の夏に初めてお会いし、11月頃にオファーしました。同じ時期にガンバ大阪で活躍された橋本選手の引退試合で来日してからずっと日本に滞在されています。来年1月に生駒市内に住み、1月中旬からチーム練習に参加し、生駒市とのプロジェクトにも取り組んでもらいます。

記者 県社会人リーグ等について教えてください。

BANDITO 生駒代表 県の社会人リーグは3部からですが、今年2部で優勝しましたので、来年4月からは1部に上がります。その後は順調にいけば関西地区の2部、関西1部リーグを経て、全国のJFL、日本社会人リーグのリーグで優勝すればJリーグ参入になります。

【02 コミュニティバス鹿ノ台線が本格運行開始】

【説明】

市長 市内には現在コミュニティバスが5路線ありますが、実証運行を経て、新たに来年1月4日から鹿ノ台線が本格運行します。今回は自治会が「鹿ノ台コミュニティバス委員会」を立ち上げて、地域の方が中心となって専門家等に相談され、例えば地元スーパーの買い物補助券の協賛の取付けや地域で

のチューリップやユリの鑑賞会との連携など利用促進に取り組まれるなど、地域主導で行なわれたのがポイントです。

〔03 生駒市×日本郵便×かんぼ生命で実施 郵便局 de フードドライブ〕

市長 現在市役所とたけまるホールの2ヶ所で食品ロス対策としてフードドライブを行っておりますが、今回日本郵政グループの協力のもと、来年の1月22日から31日までの10日間、市内の全ての郵便局でフードドライブを開催します。市内の小学校でも食品収集に熱心に取り組んでいるので、その気運の活用と、日本郵便が地域に多くの拠点があるということ、また、市も郵便局と連携をして今回の開催となりました。

【 質疑応答 】

〔コミュニティバス鹿ノ台線が本格運行開始〕

記者 市の負担はどれくらいですか。収支率3割以上ということは7割負担ということですか。

課長 はい。今回は地元の自治会でも一部負担してもらっています。

担当課 令和5年4月から12月までの全体の経費が378万2000円で、その内36万1000円を地元で負担してもらっています。

記者 既存の5路線も同じやり方ですか。

課長 地元負担は今回初めてです。既存のコミュニティバスの基本料金は1乗車200円ですが、鹿ノ台路線については、当該地域の路線バス料金が190円であり、その金額に合わせたいという地元の要望がありましたので、その差額を地元で負担していただいています。また、コミュニティバスというのは基本、既存公共交通機関と重複しないというのが原則ですので、重複部分も地元で一部負担いただいています。

記者 地元負担等の例は他自治体でもありますか。

課長 コミュニティバスのバス停を商店の前に置くことでその商店から協賛金をいただいて運行費用に充てるという例は聞いています。また、浜松市では、費用の2分の1までしか行政は負担せず、地域ごとに住民が主体となって考えるという事例もあります。各自治会単位ではなく、もっと広範囲な地域で取り組まれているという先進事例もあります。

記者 収支率3割以上というのは生駒市の基準ですか。いつから定められていますか。

課長 はい、生駒市の基準です。当初は5割負担でしたが、次第に収支率の確保が難しくなり、「生駒市地域公共交通活性化協議会」で協議の上、現在7割となっています。

記者 今後実証実験される予定はありますか。

課長 来年4月から桜ヶ丘地区で開始する予定です。実証実験では、ルートやダイヤを地元のニーズを勘案し検討を行い、収支が取れる利便性の高いものに確定した上で本格運行に移っていくという流れになります。

記者 奈良交通の路線の見直しの話がありますが、市が費用を補てんする考えはありますか。

市長 現在市と事業者と地元との3者協議を定期的実施しています。利用促進については市や地元もかなり積極的に取り組んでおり、一定の効果も出ているところです。国からの交付金を活用して燃料費高騰分や物価高に対しての支援は丁寧に行っています。まずは利用促進が大切で、これを最優先せずに市の補てんの話を出すと利用促進が進まないと考えています。

記者 市民から「生駒市地域公共交通活性化協議会」の分科会の公開の要望が出ていますが、どうですか。

市長 協議会は公開しており、分科会で議論された内容は協議会で報告されていますので、一定の透明性は確保されていると考えています。分科会は、例えば事業者の秘密に当たるような企業的なデータが議論に必要な場合もあるので原則非公開としていますが、可能であればもう少し柔軟な運用をしたいと考えています。

記者 今週末の市民団体の（公共交通を考える）シンポジウムが開催されますが、市長は参加されますか。

市長 予定はしていません。

（その他の質疑）

なし

（了）